

まちのわだい

Town Topics

収穫体験や収穫祭で下妻を満喫

いいな！下ツアー2016 11月6日

下妻の魅力を紹介する「いいな！下ツアー2016」が11月6日に開かれ、災害時の相互応援協定を契機に市民交流を図る千葉県浦安市から家族連れなど40人が下妻市を訪れました。都市と農村の継続的な交流を進め、下妻市農業の活性化を図る下妻地域ふるさと交流推進協議会がバスツアーを企画。毎週金曜日に新浦安駅前広場で下妻産の野菜を直売する「下妻ふぁ～む」の常連客を対象にしました。今回のツアーは、午前は下妻ふぁ～むの生産農家の畑で収穫体験を行った後、砂沼サンビーチで開催中の茨城をたべよう収穫祭で昼食をとり、午後からはピアスパークしもつまの天然温泉でゆったりとくつろぎ、道の駅しもつまでショッピングを楽しむ下妻を満喫するコース。茨城をたべよう収穫祭の会場では、「下妻ふぁ～むレジ袋デザイン表彰式」も行われました。式典では、応募15作品の中から最優秀賞に選ばれたデザインと完成したレジ袋が発表され、応募者全員に下妻の特産品などが贈られました。夫婦で参加した60代女性は「浦安から比較的近く、新鮮な野菜が手に入るのなら時々出かけてみたい」と笑顔で話していました。



人参の収穫を楽しむツアー参加者



最優秀賞のデザインから完成したレジ袋を掲げる下妻ふぁ～むの国府田店長



パンジーに植え替えた立体花壇とゆうゆうクラブ会員の皆さん

下妻駅前を華やかに

下妻駅西口花壇植え替え作業 11月11日

下妻の玄関口、関東鉄道常総線下妻駅の西口広場で、地元の老人会「ゆうゆうクラブ」の会員12人が花壇などの植え替え作業を行いました。平成28年3月に設置した高さ2.3メートル、幅5メートルの立体花壇やプランターに色鮮やかなパンジー516株を植え替えました。同クラブは、駅前花壇の除草、清掃、水まきなどの作業を定期的に行っています。その活動成果である駅前花壇が認められ、大好きいばらき県民会議主催の第44回花と緑の環境美化コンクールで、「大好きいばらき県民会議理事長賞」を受賞し、11月30日に水戸プラザホテルで授賞式が行われました。同クラブ会長の石川恒夫さんは「日々の活動が認められてうれしい。これからも花のまち下妻の美化活動に努めていきたい」と笑顔を見せていました。



色彩豊かな特作花壇を鑑賞する来場者(11月12日)

色彩豊か菊まつり

第31回下妻市菊まつり 10月21日～11月23日

下妻の秋の風物詩「下妻市菊まつり」が、大宝八幡宮の境内で開催され、菊の愛好家や七五三の晴れ着姿の参拝者などでにぎわいました。会場には、花卉が大きく盛り上がる「厚物」や管状に流れるように広がる「管物」、多品種の菊花を組み合わせて富士山や花時計をかたどった「特作花壇」など、下妻市菊花会の会員が丹精込めて育て上げた力作約600鉢が展示され、来場者の目を楽しませていました。市内の60代男性からは「今年も見事な菊が見れた。即売会で会員の人たちと菊の育て方などの会話ができるのも楽しい」と話が聞けました。

正しい自転車の乗り方と交通ルールを身につける

第25回下妻地区交通安全子供自転車大会 11月12日

第25回下妻地区交通安全子供自転車大会が、八千代町体育センターで開催され、下妻警察署管内の下妻市立9校と八千代町立5校の小学校から5年生69人が参加しました。信号のある交差点の左折や見通しの悪い交差点の右折、横断歩道や踏切の通過など模擬道路を使って自転車の乗り方を競いました。この大会は、正しい自転車の乗り方と交通ルールを身につけ、将来交通事故を起こさないドライバーを育てることを目的に開催されています。最優秀校に選ばれた大形小学校の渡邊希良璃さんは「先生に教わったことを本番に生かした。来年も良い成績を残せるよう頑張りたい」と抱負を語りました。最優秀校となった大形小学校は、平成29年度に開催される県大会に下妻地区代表として出場します。



交差点を左折しようとする大形小学校の選手

下妻産の新そばに舌堤

道の駅しもつま「新そば祭り」 11月12日

下妻の秋の味覚を楽しむ「新そば祭り」が、11月12日(土)・13日(日)と11月19日(土)・20日(日)の2週にわたる4日間、道の駅しもつまで行われました。来場者はそば打ち名人による実演販売の手さばきに見入ってコツを教わったり、サツマイモの天ぷらの無料サービスが付いたミニそばを食べたりと下妻産の常陸秋そばを堪能していました。道の駅しもつままでそば打ち体験の講師を務める塙文夫さんによると、「今年は夏の雨でそばの量は採れなかったようだか、味の方はおいしいし、香りもいい」と話していました。



そば打ち名人の手さばきに見入る来場者

下妻の歴史的街並みを再発見

第5回下妻街並みウォーキング 11月23日

下妻の歴史や文化等のガイド活動を行う「下妻いいところ案内人の会」が、知られざる下妻の名所を案内する「下妻街並みウォーキング」を開催しました。県内外から歴史・古建築愛好家などを含め60人が参加し、下妻街道周辺に設定された歴史的街並みを紹介するコース約5キロを、2時間弱でまわりました。つくば市から参加した高野藤昭さん(73)は「歴史があって落ち着いた。ピンフォールド邸のステンドグラスなど長く大切に保存されていてとてもいい感じ。菓子屋なども伝統があり、地元の土産を用意するにもいいところ」と話し、下妻に住んでみたいと興味を示していました。



県産米「ゆめひたち」のコンテナへの積み込み作業(東海村で)

おいしい日本の米を世界に広げたい

茨城県産米をアメリカへ輸出 10月31日

下妻市、筑西市、坂東市、八千代町の県西地域の米生産者8人が平成28年6月に設立した「茨城県産のブランド米「ゆめひたち」をアメリカに輸出する事業を始めました。国産米の輸出が少ないアメリカの市場を開拓し、販路拡大をねらうのが目的で、10月から来年1月の間に60トンの県産米を3回に分けて輸出する予定。鮮度を保つために玄米の状態に船に積み、茨城港常陸那珂港区から東京港を経由してオークランド港に輸送し、現地で精米した後、ロサンゼルスを中心とした日本食レストランに販売されます。来年以降は輸出量を増やし、年間360トンの輸出を目指すという同協議会の会長を務める下妻市二本紀の石島和美さんは「日本の農業を支える若い人材のためにも販路拡大が必要。せっかくのおいしい日本の米を世界に広げたい」と意欲を見せていました。